

■朝永振一郎 物理学者。湯川秀樹と切磋琢磨，戦時研究従事でノーベル物理学賞は遅れたが，世界平和運動も共にした。
ともながしんいちょう
満鉄発足・・1906＝ 東京の生れ。父朝永三十郎は当時東京にあった真宗大学(大谷大学)教授であった。
韓国反日暴動1907＝ 1歳：父が京都帝国大学哲学科教授になり，京都へ移住。

明治天皇没・1912＝ 6歳：

21ヶ条要求・1915＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝15歳：
水平社結成・1922＝16歳： ̵️アインシュタインが来日，刺激を受ける。
関東大震災・1923＝17歳： ̵️第三高等学校に入学，湯川秀樹と出会う。
護憲三派圧勝1924＝18歳：

円本時代始・1926＝20歳： ̵️湯川とともに，京都帝国大学理学部へ入学。

共産党事件・1928＝22歳： ̵️湯川とともに，玉城嘉一郎から量子力学などの指導を受ける。
世界恐慌・・1929＝23歳： ̵️ハイゼンベルクとディラックが来日。京大理学部を卒業し，玉城教授の副手となる。

満州事変・・1931＝25歳： ̵️仁科芳雄の京大出張講義を聴講のうちに認められ，
五一五事件・1932＝26歳： ̵️中性子および陽電子が発見された年，理化学研究所に新設早々の仁科研究室に入る。
国際連盟脱退1933＝27歳：
帝人疑獄事件1934＝28歳： *人工放射能の発見と画期的大発見が相次ぎ，原子物理学の新たな躍進が始まったとき，朝永は仁科を助け，後輩たちを指導して，欧米の第一級の学者に伍して数々の理論的研究を成し遂げる。

日中戦争始・1937＝31歳： ̵️日独交換研究生としてライプチヒ大学のW.K.ハイゼンベルクのもとで原子核理論の研究に従事したが，

第二次大戦始1939＝33歳： ̵️第二次世界大戦勃発にあい引揚船で帰国。
大政翼賛会・1940＝34歳：結婚。
日米開戦・・1941＝35歳： ̵️東京文理科大学教授となり，中間子論および超多時間理論を研究し始め，
・・・・・1942＝36歳：
創価学会検挙1943＝37歳： ̵️「超多時間理論」を発表。これは，場の量子論の相対論的定式化を完成したものである。
年金+総武装 1944＝38歳： ̵️戦時研究員としてマグネトロンや立体回路に関する研究に従事。(ノーベル賞が遅れた原因?)戦時下も刊行されていた理化学研究所の和文報告に発表。マグネトロンの発振機構をみごとに解明した。

敗戦・・・・1945＝39歳：

極東裁判決・1948＝42歳： *超多時間理論の定式化を展開して「くりこみ理論」として発表し，学士院賞。
三大事件・・1949＝43歳： オッペンハイマーの招きでプリンストン高等研究所へ行き，
朝鮮戦争始・1950＝44歳： 多体問題の研究をまとめて，帰国。
独立回復・・1951＝45歳： ̵️仁科の死去後，その後任として日本学術会議原子核研究連絡委員長になる。
メデー事件・ 1952＝46歳： ̵️文化勲章。

国連加盟・・1956＝50歳： ̵️東京教育大学学長に就任。
なべ底不況・1957＝51歳： ̵️湯川とともに，カナダでの第1回バグウォッシュ会議に出席。日本学術会議訪中物理学者団団長。

安保闘争・・1960＝54歳：

全国総合計画1962＝56歳：東京教育大学学長を退任。 ̵️湯川とともに，第1回科学者京都会議を開催。
TV宇宙中継始1963＝57歳： ̵️日本学術会議会長になり，基礎科学の研究環境の向上に寄与。

大学紛争始・1965＝59歳： *量子力学の分野における基礎的研究によりノーベル物理学賞を受けた。

全共闘ピーク・1969＝63歳： ̵️日本学術会議会長を退く。世界平和アピール七人委員会のメンバーに加わる。東京教育大学を定年退官。

石油ショック1973＝67歳：

クランポール事件1975＝69歳： ̵️京都でのバグウォッシュ会議で，病中の湯川を助けて尽力。湯川・朝永宣言「核抑止を超えて」を発表し，

成田衝突・・1978＝72歳：
革新大敗北・1979＝73歳： ̵️没した。